



# 第4代会頭 大庫典雄氏ご逝去 在りし日を偲ぶ

第4代会頭で、オークラ輸送機(株)会長の大庫典雄氏が7月17日、老衰のため加古川市内のご自宅で亡くなられました。93歳。

同氏は、昭和26年に機械修理を家業とした合資会社大庫機械製作所に入社、昭和38年にオークラ輸送機株式会社に改称し「生産活動は、運搬作業の連続である」と、企業の生産性向上には運搬作業の機械化が不可欠となることを予見し、コロンキャリアをはじめ、自動倉庫システム、トラックローダなど特許45件、実用新案110件に及ぶ発明・考案を自ら行ったほか、社内技術者に対する技術指導者として、精力的に研究開発を指導するなど、長きにわたり社業の発展に努められました。

その功績は、科学技術庁及び社団法人発明協会にも認められ、昭和59年には自動荷積機の開発育成に寄与したとして科学技術庁長官賞を受賞し、その他発明賞・優秀賞など数回にわたり受賞したほか、平成元年には無端連結台車式自動仕分装置の開発育成に寄与したとして、藍綬褒章を受章されています。

昭和45年に当所副会頭、昭和51年に常議員、昭和54年に再度副会頭に就任し、約29年にわたって会

頭を補佐し地元産業界の振興発展に尽力されました。

平成12年4月には当時の滝川松男会頭の逝去により会頭職務執行者に就任、同年8月に会頭に就任しました。商工会議所が地域経済界のリーダーとして商工業者の総合的意見を集約し幅広い事業を展開していくためには、財政基盤の確立と地元商工業者、一般市民の商工会議所に対する理解と支援をいかに多く得るかが重要であるという認識に立ち、創立50周年を機に全会員事業所訪問を実施し、会員のニーズを探り、会員のニーズに添った「望まれる事業」「利用しやすい事業」「役に立つと実感できる事業」を展開しました。

昭和50年代は、第2次オイルショックによるエネルギー問題や環境保全対策などが大きな社会的問題として取り上げられる一方、企業に対する環境保全への責任が問われ、市内工業関係企業も対策に追われ、苦慮していました。同氏は、副会頭としてこれらの実情を深く認識する中で思い切った対策が必要であることを痛感し、昭和

55年2月、大手企業を含む38事業所が参画し、加古川商工会議所工業振興対策の一環として「加古川市環境保全研究会」を結成し、平成12年まで長きにわたり会長を務めました。

同研究会は現在も、技術研究や意見交換を行い、地域の環境問題に取り組んでいます。



加古川市環境保全研究会設立15周年式典で、木下加古川市長より感謝状が贈られた(平6.7)

同氏が加古川地域の発展と活性化に尽力していたなか、平成12年12月、当時加古川地域において唯一の百貨店「加古川そごう」が親会社の民事再生法適用を受け、駅前再開発ビルのキータナントから撤退することになります。加古川



ヤマトヤシキ加古川店OPEN。氏のリーダーシップにより駅前のにぎわいを取り戻す(平13.3)

線等の代替路線として役立つJR加古川線の重要性が、人員・物資の輸送迂回ルートとして再認識されたことから、当時非電

化路線であった加古川線を電化する安全・安心な公共交通体系の充実が喫緊の課題であると考え、

加古川線沿線9市町において「JR加古川線電化・高速化利用促進委員会」を設立し、自ら会長に就任しました。持ち前の行動力を発揮し、運動の先頭に立ち、その強い情熱と行動力が関係当局を動かして電化開業にこぎつけ、駅舎整備や駅前広場整備等が行われ、更にコミュニティスペースを駅に併設するなど鉄道を中心とした地域活性化が行われました。

平成16年に退任されましたが、昭和44年の議員就任から30年以上もの長きにわたって加古川商工会議所の運営に関わり、地域経済の振興と地域社会の発展に多大なる貢献をされたことは、加古川商工会議所にとって大きな財産として受け継がれています。深甚なる敬意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

駅前商業活性化や東播磨の中核都市に相応しい街づくりのためには都市型百貨店が是非とも必要であるという認識の上に立ち、年末押し迫る12月30日、集まった関係者を前に「駅前の灯を消してはならない」と話し、姫路市が本店の「ヤマトヤシキ」に対して、自ら先頭に立ち精力的な出店要請を行いました。その結果、わずか3カ月後の平成13年3月末に再開発ビルのキータナントとして「ヤマトヤシキ加古川店」を出店させたのです。当時の関係者は「あの時の力強い言葉は本当に心強かった」と、温厚ななかにも強いリーダーシップを感じられるエピソードとして、その功績を称えています。

また、平成7年の阪神・淡路大震災の際に不通となったJR神戸

## 大庫典雄さんを偲んで

第7代会頭 釜谷 和明

第4代大庫典雄会頭の経歴を拝見すると昭和45年、43歳と若くして副会頭に就任され、以来30年以上もの長きにわたり会頭と副会頭を務めておられます。永年のご功績は計り知れないほど多岐に渡っています。第3代滝川松男会頭のもとで加古川駅前再開発事業、大規模ショッピングセンターの相次ぐ進出など、地元商業者にとって死活問題となる当時の数々の難題に対し、鋭い視点で指揮を執る会頭を副会頭として陰で強固に支えてきた情熱と行動力のある方だと、共に19年間副会頭を務めさせて頂いた私の父定雄より聞いていました。

結成に尽力された加古川市環境保全研究会は、企業の環境問題への取組みが重要になりつつあった当時、各企業の担当者が協力して公害対策技術の研究や実践に取り組む非常に珍しい事例として、全国から注目を集めました。

私が父の跡を継ぎ当所議員活動や各種会合等に参加させていただくようになった頃、諸先輩方の中で一番若く右往左往している私に事あるごとに处世術を教えてくださいなると公私ともに大変お世話になりました。車椅子を使われるようになってからもその行動力は変わらず、八丈島や甕島などの離島旅行にご一緒させていただいたことも思い出されます。長距離移動で疲れている筈ですが、到着するとすぐ島民と打ち解け談笑されている、あの光景が今でも目に浮かびます。



仲間との離島旅行、八丈島にて(平24.2)

企業のトップの立場でありながら奥様共々とても謙虚で、誰に対しても偉ぶったところを見たことがなく、周囲の人達を和ませるあの温かな笑顔は忘れられません。ゴルフもかなり高齢になるまで続け、スコアよりも仲間とプレーするその時間を楽しんでおられる様でした。生涯現役で長きにわたり経営者そして経済人として地域の発展に多大な貢献をされましたこと、深甚なる敬意を表します。心からご冥福をお祈りいたします。